

【講演抄録】

新しい技術や材料が次々に開発され情報も溢れるくらい発信され、何が本当かわからない時代になりました。

しかし、私たちの日常診療は義歯、歯冠補綴が中心で、CAD/CAMや、インプラント等は補綴における割合は小さい物です。

インプラント専門医では月10本くらいのペースですが、一般の歯科医院では年2～3本あるかないかです。

今回は、少ない投資で大きく販路が見込める、義歯、MB冠を中心にお話させていただきたいと思います。

よく咬める義歯をつくるにはどんな方法があるか、また歯科医師が気を配るべきポイント、技工サイドの工夫、ジルコニアではできないMB冠の利便性をお知らせできたらと思います。

拙い診療記録で大変恐縮ですが、先生方のお役にたつお話ができますよう努めますのでよろしくお願い致します。

【講師略歴】

笹部 努 (ささべ つとむ)

平成12年 ささべ歯科医院、開業

平成17年 豊中市歯科医師会 理事就任

平成25年 豊中市歯科医師会 常務理事(総務)就任

The Key to Success for Implant Digital Dentistry

山下 恒彦

歯科界の全ての分野に於いてデジタル化が急速に浸透した今日、その波は無論インプラント デンティストリーの各治療ステップにも大きく影響をもたらしたと言える。そして、インプラント治療のデジタル化がより進化した事で患者の外科的負担の軽減(MI コンセプト)や、治療期間の短縮等のメリットが得られるようになった。そしてその一連の流れを簡単に列記すると、

まず術前診査診断の段階での、CT デジタル画像と診断用ソフトを使用した3次元的なシミュレーション。そのシミュレーションを元に製作されるサージカル ガイドとプロビジョナル レストレーション。そのガイドを用いたガイドド サージェリー直後のイミディエイト プロビジョナライゼーション。そしてデジタル インプレッション採得からのアバットメントないし最終補綴物への移行と、現在ではデジタル テクノロジー無しには正確なインプラント治療の達成はあり得ないと言っても過言では無いだろう。

これら一連の治療の流れから本講演では CAD/CAM テクノロジーを用いた最新のインプラント補綴コンセプトをその種類、デザイン、材料等も含め詳しく解説していきたい。